

科目名	スピーチ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			全学科	□必修	■選択
英文表記	Speech	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
			開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	わたひき かおる	実務家教員担当科目	○	修得単位	2 単位
担当者名	綿引 かおる	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	話すこと・スピーチの技能向上と、思考力・表現力の向上				
到達目標	以下の事項ができるようになることを目標とします。 ・自分の考えや意見を、臆せず理路整然と効果的に伝えることができるようになる。 ・様々なテーマのスピーチについて内容を準備して発表に臨み、思考力、表現力などを向上させる。 ・他の学生の発表を聴いて様々な考え方や表現方法や価値観があることを理解し、自己の表現方法の向上につなげるとともに互いを認め合うことができるようになる。				
授業概要	自己表現やコミュニケーションに不可欠な「話すこと・スピーチ」の技能向上を図ります。 話し方やスピーチに必要な要素、方法などについて学んだ後、実際に会話・スピーチ・ディスカッションを行います。 発表はその都度ビデオ撮影し、多角的・客観的に確認して、技能向上につなげます。				
授業計画					
第1回	話してみよう (1分スピーチに挑戦)				
第2回	情報や意見の伝え方 (スピーチをするうえで意識すべき要素を学ぶ)				
第3回	発声・発音・音声表現 (感染症の状況などを確認した上で実技を交えて実施)				
第4回	言葉遣い (正しく分かりやすく効果的な言葉遣いについて学ぶ)				
第5回	情報を伝えるスピーチ (当日初見となる課題物について分析し、まとめ、発表する)				
第6回	経験に関するスピーチ① (作成)				
第7回	経験に関するスピーチ② (第6回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生)				
第8回	時事に関するスピーチ① (作成)				
第9回	時事に関するスピーチ② (第8回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生)				
第10回	インタビュー① (2人1組になり話すことと聴くことの実習)				
第11回	インタビュー② (第10回で相手から聴き出した内容をまとめて発表。ビデオ撮影し、発表後に再生)				
第12回	ディスカッション① (与えられたテーマについてグループ内で話し合う)				
第13回	ディスカッション② (第12回で話し合った結果を発表する)				
第14回	課題スピーチ発表準備 (作成)				
第15回	課題スピーチ発表 (第14回で作成したものを発表する。ビデオ撮影し、発表後に再生)				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	世の中の出来事に関心を持ち、ニュースを見聞きするなどして、それについて自分はどう思うかを必ず考えること。 講義時に話(1分スピーチ)ができるよう話題を見つけておくこと(身近な事柄でも構いません)。 (1日10分程度 = 1週につき1時間程度)				
履修条件 受講のルール	発表や話す機会が毎回あるので、不慣れ・苦手でも構わないので教場で発表することに真摯に臨むこと。				
テキスト	講師作成の資料を講義回ごとにポータルサイトでデータ配布します。				

参考文献・資料	同上
成績評価の方法	<p>第15回の課題スピーチ発表（50％）・第16回の筆記試験（50％） 上記評価項目をもとにして総合的に判断します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>非常勤のため受講者にはメールなどで対応します。 メールアドレスは講義時に伝えます。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>1992年～2007年、秋田テレビ株式会社にアナウンサーとして勤務。報道番組、情報番組を担当。フジテレビ「めざましテレビ」リポーター功労賞受賞。実務のなかで修得した、話し方・アナウンス・スピーチの技法や、人前で話す心構えなども伝えていきます。</p>
学生へのメッセージ	<p>話すことは、学習や経験を積むことでどんどん技能向上します。 公的に話す場合はもちろん、普段の生活でも、話す力を身につけておくことは必要です。 今の自分のためにも、将来の自分のためにも、積極的に受講してください。</p>